

花き・観葉植物の生理的リラックス・調整効果と それを活用した流通・消費システムについて

政策研究調査官 石橋 紀也

日時：平成27年5月27日（水）14時～16時

場所：農林水産政策研究所セミナー室

農林水産政策研究所では、新たな知見や長期的な視点に立った政策研究を推進するため、大学、シンクタンク等の研究機関の幅広い知見を活用する提案公募型の研究委託事業を行っています。

その中で、平成24～26年度の3カ年度において、花きや観葉植物が人に及ぼす影響やその効用情報を活用した流通・消費システム構築のための条件等についての委託研究を進めてきたところです。この度、「花き・観葉植物の生理的リラックス・調整効果とそれを活用した流通・消費システム」とのテーマでセミナーを開催し、本研究に携われた千葉大学環境健康フィールド科学センター副センター長（千葉大学教授）の宮崎良文氏、みずほ情報総研株式会社上席課長の松本牧生氏からその研究成果をご報告いただきました。その概要についてご紹介いたします。

1. 花き・観葉植物の生理的リラックスと調整効果について

まず初めに、宮崎氏から花きや緑が人の体に及ぼす影響についての説明がありました。

○自然と人の関係

人は人となってから約500～700万年が経っていると言われていています。人は自然の中で進化してきました。約300年前の産業革命が都市化の始まりとすると、人は99.99%以上、自然の中で進化を遂げ、自然に対応した体になっています。現代の人工環境下での生活で、人は知らず知らずのうちにストレス状態となっているのです。



宮崎 良文氏

○花きもたらす医学的效果等の総合的評価法の確立

これまで、自然由来の刺激がもたらす効果を証明するデータとしては、アンケート調査（森の中を歩くと気持ちが良い等）など主観的なリラックス効果を検証したものがほとんどでした。しかし近年新規生理測定技術や機器が開発されており、これらを使った実験を行えるようになってきました。本研究では、花きや緑の効用について、被験者による実験を行い、様々な生理的指標（心拍数、心拍変動性、血圧、脳近赤外分光法等）を用いて医学的效果を明らかにする新総合的評価法を確立しました。これらを用いて評価した自然由来の刺激による快適性・リラックス効果の解明は、世界初の知見となります。

○花きや緑のストレス軽減効果

高校生や医療従事者等を対象に、新総合的評価法を用いたバラ生花や観葉植物（ドラセナ）の視覚刺激実験を行いました。その結果、リラックス状態で高まる副交感神経活動が活発になり、ストレス状態で高まる交感神経活動が抑制されることが明らかになりました。加えて、性格の激しい人と穏やかな人に対しても実験を行ったところ、性格の激しい人の交感神経活動が抑制されることも分かりました。

また、バラ生花の香りは、脳の前頭前野活動を鎮静化し、リラックス状態をもたらすことが分かりました。このことから、花や緑にはストレス状態を軽減させる効果があることが明らかになりました。



視覚刺激実験風景

○花きや緑の調整効果

また、人は森の中を歩くと血圧の高い人は下がり、逆に低すぎる人は高くなることが分かりました。バラを見た場合も、交感神経活動が高すぎる人は下がり、低すぎる人は高くなることが分かり、花や緑には、人を最適な状態に調整する効果があることが示されました。

このように、花きや緑にはストレス状態を軽減させるとともに、人の体を調整する効果があることが分かりました。今後、このような効用が医療費の削減に繋がっていくことが期待されます。

2. 花きの効用を用いた流通・消費システムの構築について

次に、松本氏から、上記により明らかになった花きや緑のもたらす効用を活用した花きや観葉植物の流通・消費システム構築のための条件や課題についての説明がありました。



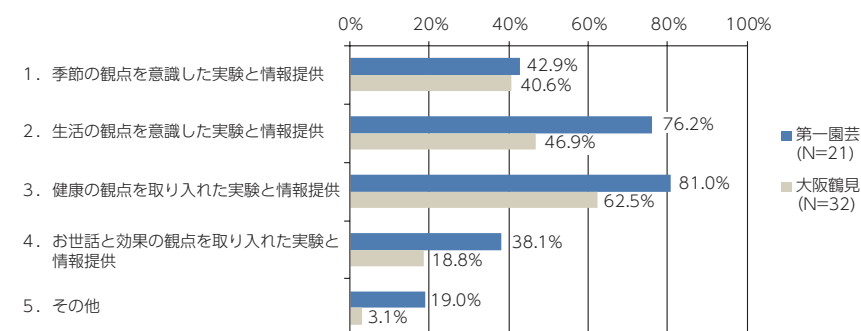
松本 牧生氏

○生産・流通・消費サイドと研究サイドとの交流

花き販売店・販売担当者を対象としたアンケート調査では、花きの効用に関する情報発信は販売増に役立ち、さらに研究を進めるに当たっては、「健康の観点」や「生活の観点」を意識した実験と情報提供が期待されているとの意見がありました（第1図）。このことは、生産・流通・消費サイドと研究サイドとが情報交流することで、研究サイドにとっては、社会ニーズに裏付けされた研究を進めることができ、一方で生産・流通・消費サイドにとっては、販売増に繋がる情報発信ができることから、両者にとっては大変有益であることが期待されます。

○異業種との交流

花きの生産・流通・販売事業者は、生産方法や販売方法については熱心に考えたりしていますが、販売先でどのような活用のされ方をしているかについては、あまり関心が高くないのが実態です。このため、花きを大量に消費すると想定される関係団体、



第1図 花きの効用情報をさらに役立たせるために望まれる実験、情報提供

業界団体等（観光業界、スポーツ業界等）のいわゆる異業種と交流を行うことで、花きの活用ニーズ情報の収集や次の研究、販売戦略の参考とします。

○人材の育成

花きの医学的効用を花きの販売増につなげるためには、一時的な広報活動だけではなく、花きに関する専門的知識を持つ人材の育成が大切です。そのためには、研修会の充実や販売員を認証する仕組み（花セラピスト等）の検討等が必要です。

○司令塔機能を持つ組織の育成

上記で述べてきた取組を実行するためには、花き業界の内部に司令塔機能（旗振り役）がいることが望ましく、広報活動の経験があり、情報媒体を持っている組織・団体が関与することが望ましいと考えられます。

3. 関係施策の紹介について

最後に、農林水産省生産局花き産業・施設園芸振興室の赤堀益男課長補佐より、花き振興法の施行と花き行政を取りまく状況についての説明がありました。説明では、国産花きの育種技術は世界最高レベルにあるものの、海外からの輸入品は年々増加の傾向にあること、このため、花き業界が一致団結し、国産シェアの奪還と輸出の拡大に向けた攻めの農政を今後展開していくことについての紹介がありました。



赤堀 益男氏

（注）セミナーの資料は、下記の農林水産政策研究所ホームページでご覧になれます。
<http://www.maff.go.jp/primaff/meeting/kaisai/2015/index.html>